

## 重要名詞・時の古語 確認テスト（古文常識） 解答・解説

### ■ 解答・解説

問1 夜明け前、まだ暗いころ（午前三時～五時ごろ）。「暁」は夜が明けようとする直前の、まだ暗い時間帯を指す。これより少し明るくなると「あけぼの」「しのめ」となる。

問2 昼ごろ。正午前後の時間帯を指す。「～つ方」は「～のころ」の意。

問3 夕方になると。/ 夕方になったので。「夕さる」は「夕方になる」の意の動詞で、「されば」は已然形＋接続助詞「ば」。文脈により順接（…になると／…になったので）に訳す。

問4 日が暮れて間もないころから明かりをともし、管絃の遊び（音楽の催し）があった。「宵」は夜の早い時間帯、「御遊び」は管絃の遊びを指す。

問5 真夜中、午前零時ごろ（およそ午後十一時～午前一時）。十二支で時刻を表すと、子の刻は一日の起点で深夜にあたる。

問6 午前二時ごろ（およそ午前一時～三時）。子の次が丑で、深夜から明け方へ向かう時間帯。「丑三つ時」はこの丑の刻をさらに四分した第三の部分で、午前二時半ごろを指す。

問7 北東の方角。十二支を方角に当てると、子＝北、卯＝東、午＝南、酉＝西で、丑と寅の間が北東にあたる。北東は俗に「鬼門」と呼ばれ、鬼（邪気）が出入りする不吉な方角として忌まれた。

問8 摂政・関白や大臣・大納言・中納言など、三位以上（および参議）の高位の貴族をまとめていう語。公卿（くぎょう）ともいう。朝廷の政務を担う最上層の人々。

問9 四位・五位のうち、清涼殿の殿上の間に昇ること（昇殿）を許された人々。および六位の蔵人。天皇の近くに伺候できる、選ばれた中級貴族をいう。

問10 任国に実際に赴任して政務を執り、その国を治めた国司の長官（守など）。地方の実務と徴税を担い、私財を蓄えることも多かった。

問11 宮中や貴族の邸宅に仕え、独立した部屋（房）を与えられた女性の使用人。教養ある女性が多く、『枕草子』の清少納言、『源氏物語』の紫式部もこの女房であった。

問12 すだれ。竹や葦を細く割って編み、室内と外、または部屋と部屋の間を隔てるために垂らした道具。貴人の姿を直接見せないための仕切りでもあった。

問13 渡殿＝寝殿造で、母屋や対屋など建物どうしをつなぐ渡り廊下。／寝殿＝寝殿造の中心となる正殿で、主人が住み、儀式や対面の場となる建物。

問14 ほんの少しの間。ちょっと。一時的に。「あからさまに立ち出づ」で「ちょっと外出する」の意。現代語の「あからさま（露骨だ）」とは意味が異なる点に注意。

問15 縁（えん）。つながり。血縁・縁故、また関係・由縁。「ゆかりある人」で「縁のある人・関係する人」の意。

問16 漢字＝本意。意味＝かねてからの望み・本来の意志・かねての願い。「ほいなし」で「不本意だ・心ならずも」の意になる。

---

問17 様子。ありさま。ここでは「空のけしき」で、空のようす（雲行き・天候のぐあい）を指す。「機嫌・気色」の意で用いられることもある。

---

問18 あげぼの＝夜がほのぼのと明けはじめるころ（明け方）。／つとめて＝早朝。また「(何かのあった)翌朝」の意でも用いる。「冬はつとめて」は冬は早朝が趣深い、の意。

---

問19 宵＝日が暮れて間もないころ（夜の早い時間帯）。／夜中＝夜のなかば、真夜中ごろ。夜は「宵→夜中→暁」の順に移る。

---

問20 睦月＝一月。／師走＝十二月。

---

問21 睦月（一月）・如月（二月）・弥生（三月）・卯月（四月）・皐月（五月）・水無月（六月）・文月（七月）・葉月（八月）・長月（九月）・神無月（十月）・霜月（十一月）・師走（十二月）。

---

問22 東＝卯／西＝酉／南＝午／北＝子。十二支を時計回りに方角へ配し、子（北）を起点として卯（東）・午（南）・酉（西）が四方にあたる。

---